

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2024年 第19週（5月6日～5月12日）

今週のコメント

～手足口病～ 手洗いの励行と排泄物の適切な処理が重要

定点把握感染症

「手足口病 増加」

第19週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は2,456例であり、前週比32.3%増であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、手足口病、RSウイルス感染症、流行性角結膜炎の順で、定点あたり報告数はそれぞれ4.72、2.92、1.77、1.71、0.52である。

感染性胃腸炎は前週比49%増の920例で、三島6.06、南河内5.81、堺市5.74、北河内5.36、中河内5.32であった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は26%増の569例で、大阪市南部4.89、南河内4.63、北河内4.12である。

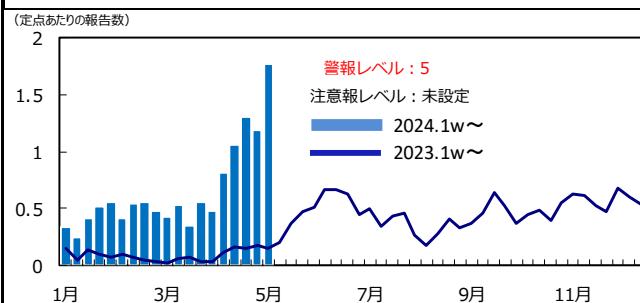
手足口病は50%増の346例で、大阪市北部3.57、南河内2.56、北河内2.48であった。

RSウイルス感染症は8%減の334例で、大阪市北部3.64、中河内2.47、南河内2.31である。

流行性角結膜炎は42%増の27例で、南河内1.50、北河内1.17、豊能1.00であった。

新型コロナウイルス感染症は26%増の631例で、定点あたり報告数は2.08である。南河内2.96、豊能2.53、堺市2.28、大阪市西部2.20、大阪市東部2.18であった。

手足口病



感染性胃腸炎

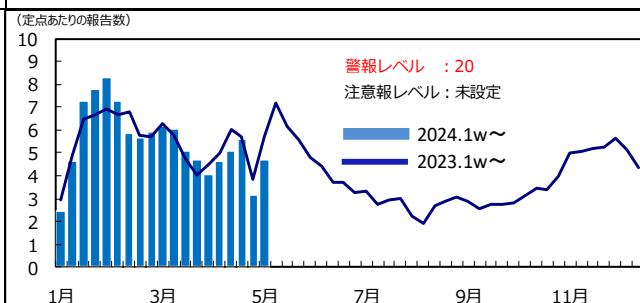


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2024年 第19週5月6日～5月12日）

第19週の順位	第18週の順位	感染症	2024年第19週の定点あたり報告数	前週比増減	2023年第19週の定点あたり報告数	2024年第19週の年齢別患者発生数最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	4.72	49%増	5.65	10-14歳_13%
2	2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.92	26%増	1.53	10-14歳_15%
3	4	手足口病	1.77	50%増	0.15	1歳_40%
4	3	RSウイルス感染症	1.71	8%減	2.79	1歳未満_40%
5	6	流行性角結膜炎	0.52	42%増	0.21	20歳以上_74%
参考		新型コロナウイルス感染症(COVID-19定点報告疾患)	2.08	26%増	1.79	20-29歳_13%

新型コロナウイルス感染症は、定点種別が異なるため、参考として記載しています。

[詳細はリンク先の『令和2年11月2日以降\(大阪府\)』の情報をご覧ください。](#)

[詳細はリンク先の『新型コロナウイルス感染症\(大阪府感染症情報センター\)』の情報をご覧ください。](#)

突発性発しんについては、(1)季節変動はないと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないから、

本文には詳細に記載していません。

第19週のコメント

～劇症型溶血性レンサ球菌感染症～ 国内では、毎年400-500例報告されているが、2024年は第18週時点で、800例を超えている

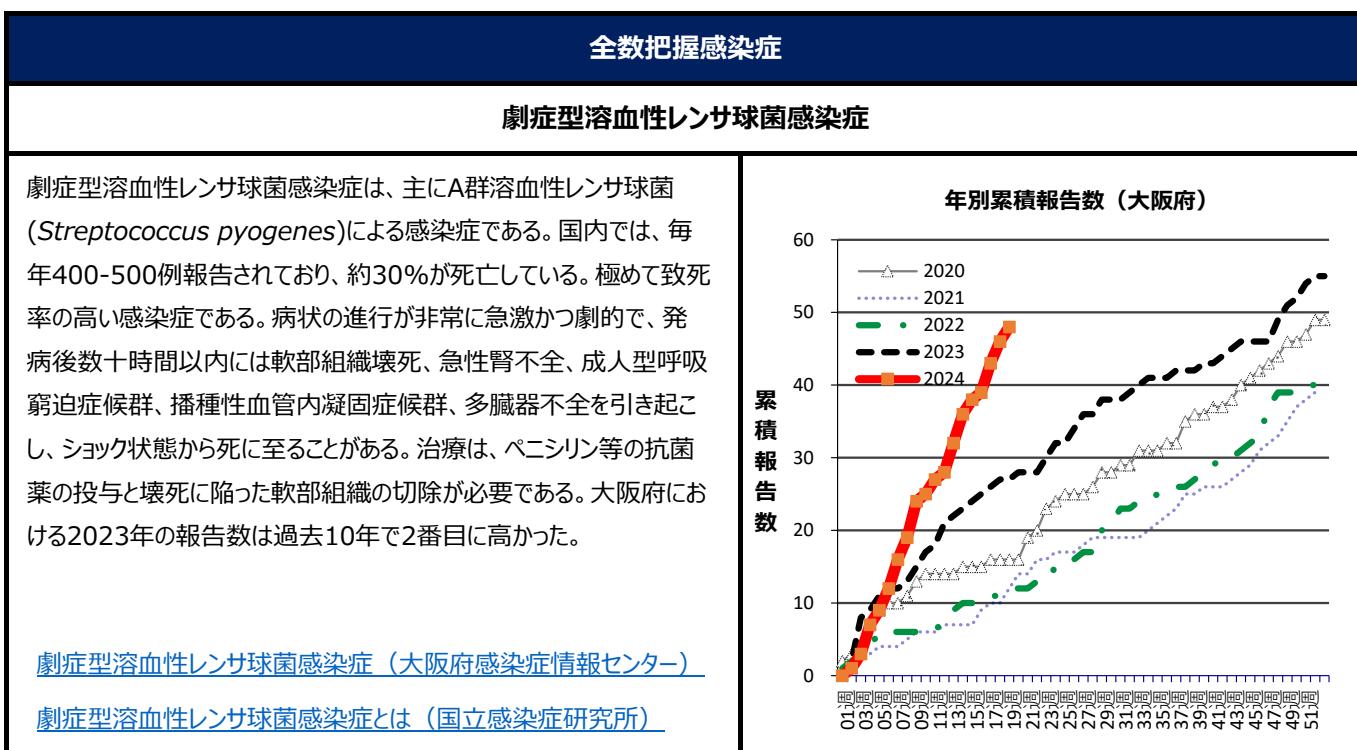


表2. 大阪府全数報告数（2024年 第19週5月6日～5月12日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
(報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】>全数把握疾患 をご覧ください。)

	疾患名 () 内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1								1	32
	腸チフス	1								1	2
4類感染症	日本紅斑熱	1		1							2
	レジオネラ症（肺炎型）	1	1								31
5類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	2	1		1						57
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2							1	1	48
	後天性免疫不全症候群	1								1	32
	侵襲性肺炎球菌感染症	2								2	99
	梅毒	15							2	13	588
	百日咳	1		1							19
結核 (2024年3月分)	結核 新登録患者数：58名 (府内累積報告数 212名、内 肺・喀痰塗抹陽性 91名)										

(2024年5月14日 集計分)